

令和 8 年度 (2026 年度)
京都市立芸術大学大学院音楽研究科 (修士課程) 入学試験問題
音楽学専攻 語学 (英語)

問1. 次の英文の下線部 (1)、(2)、(3) を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

出典 : David Brackett, (In search of) musical meaning: genres, categories and crossover (2002). In David Hesmondhalgh & Keith Negus. *Popular Music Studies* (p. 65), London: Hodder Education

問2. 次の英文について、以下の問いに答えなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

出典 : Dorottya Fabian, Commercial sound recordings and trends in expressive music performance: Why should experimental researchers pay attention? (2014). In Dorottya Fabian, Renee Timmers, & Emery Schubert. *Expressiveness in Music Performance: Empirical Approaches across Styles and Cultures* (pp. 58-59), New York: Oxford University Press. (一部改変)

(注) Toscanini (アルトゥーロ・トスカニーニ, 1867-1957) および Karajan (ヘルベルト・フォン・カラヤン, 1908-1989) は指揮者の名前である。

- (1) 下線部 (A) phrase-arch model (フレーズ・アーチモデル) について、ショパンのマズルカ (Op. 63, No. 3) のテンポやタイミングのデータ分析により、どのようなことがわかったと書かれているか、日本語で簡潔に述べなさい。
- (2) 本文では、西洋クラシック音楽の録音データを解析した事例がいくつか述べられている。(1) で問うたショパンのマズルカ以外の例を本文中から3つ挙げ、それぞれ日本語でまとめなさい。